

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立両新田中学校
(令和5年2月20日作成)

1 学校教育目標	
<h2>自ら学び 心豊かに たくましく</h2>	
自ら学び（知） ～自分の考えをもつ 正しく判断し行動する 目標を持ち努力する 心豊かに（徳） ～互いのよさや努力を認め合う 態度や行動に示し主体的な実践をする たくましく（体） ～困難を克服する力やすこやかな体をめざす 規律正しい生活習慣を確立する	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
(1) 学習指導の充実 (2) 幼保小中を一貫した教育の推進 (3) 安全・安心で開かれた学校づくり (4) 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 (5) 心豊かに生きる生徒の育成	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を図りながら、全教職員が学校教育目標、基本方針、重点目標を意識し、教育活動を進めることができた。特に、生徒に寄り添い、理解し、生徒一人ひとりにあった指導・支援を学校全体で行うことができた。 【課題】 ・生徒の基礎学力の定着を図るとともに、学校全体で学力向上に向けた取り組みを進める。特に、教職員の授業力を向上させるための、研修が必要である。

4 評価表 ※評価基準 [A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	○校長の学校経営方針を教職員が理解し、具現化できるように、運営委員会や職員会議、各委員会（生徒指導、教育相談、いじめ防止）等で、情報を共有しながら連携し、学校運営を行うことができた。 ○年度当初の分掌を決める際に、職員の経験等を踏まえた分掌の配置をすることができた。 ●各行事で分担が不明瞭な部分があったので、前年度の担当者が、資料等の引継ぎを確実に行う必要がある。 ●校務分掌、学校行事等、学校の教育活動全体を見直し、スクラップ&ビルドによる、業務量の精選を図る必要がある。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	○教職員の不祥事根絶に向けた研修や教職員の授業力向上を図るために、校内授業参観週間を設定し、教職員が互いの授業の参観や、指導法を学びあうことで、授業力を向上させることができた。また、幼保小中一貫教育の研究に関わる研修を充実させることができた。 ●ICT機器の活用や特別支援教育等について、研修内容の充実を図る必要がある。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○日頃の健康観察や、校内の感染症防止対策を適切に行うことができた。 ○台風や地震等の非常災害時のマニュアルが整備されている。また、防災訓練を定期的に行うことができた。 ●安全点検後の修復すべき箇所は迅速に対応を行う。また、毎月行っている安全点検を引き続き行っていく。

	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○全教職員が個人情報の管理を徹底するとともに、個人情報持ち出し簿を活用し、個人情報の漏洩をゼロにすることができた。</p> <p>●校内が老朽化しており、修繕を必要とする箇所が多いので、迅速に対応を図る。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<p>○学校だよりやHPで定期的に学校情報を公開している。また、保護者会や体育祭、合唱祭、授業参観を実施し、保護者が学校に来校する機会を多く設定することができた。</p> <p>○保護者への配信メールを有効に活用し、様々な情報を発信することができた。</p> <p>●新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じながら、次年度もコロナ禍前同様の学校行事を行えるように計画をしていく。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○両新田中学校区幼保小中一貫教育の充実を図る研修を充実させることができた。特に、小・中学校の合同研修会や研究仮説に迫る内容をテーマにした研修を充実させたことで、職員の授業力が向上した。</p> <p>●幼保小中一貫教育の取り組みを、全教職員で行っているという意識をより醸成させられる組織再編を行う必要がある。</p>

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○学校全体で学校教育目標を理解し、その目標を達成するために日々の教育活動に取り組むことができた。</p> <p>○教育課程の編成や実施計画通りに行うことができた。</p> <p>●新学習指導要領の評価について、全教職員が再度、理解を深め、共通理解を図る必要がある。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<p>○授業の中で、草加っ子の学びを支える授業の5か条の第3条、第4条の視点を全教職員が授業に取り入れ、主体的・対話的で深い学びのある授業を実践することができた。</p> <p>○毎学期教科会を開き、進捗状況や指導法、また、各学力・学習状況調査の結果を分析し、授業に生かすことができた。</p> <p>●基礎・基本の定着が浅い生徒が多いので、学校全体でこれを改善するための取り組みを行っていく（基礎学力コンテスト、長期休業中の学習会等）</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○道徳の授業をローテーションで行ったことで、生徒は多くの教職員の道徳の授業を受け、様々な価値観に触れることができた。また、教員の授業の準備の負担を軽減することができた。</p> <p>○「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」における校内研修において、指導者の方から講義をいただき、全教職員の道徳の授業力の向上につなげることができた。</p> <p>●道徳科の指導や評価については、継続して研究を深めていく必要がある。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<p>○生徒主体の活動となるように、リーダーの育成を図ることができた。また、様々な行事を通して、生徒に達成感を味わわせ、生徒の自己肯定感や自己有用感を育むことができた。引き続き、生徒が主体となって活動できる機会を多く設定し、生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成を図る。</p>

⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○様々な地域の方を招き、職業について講義を頂き、生徒が自分の将来について考えるきっかけをつくることができた。</p> <p>●生徒自らが課題を設定したり、課題を解決できるよう、より探究的な活動を意識した年間指導計画や全体計画を作成する。</p>
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	B	<p>○学校全体で情報を共有しながら、共通理解、共通指導を行うことができた。</p> <p>○年度初めに、全校で一斉に生徒指導集会を行ったことで、生徒も教職員も共通理解を図ることができた。</p> <p>●不登校の生徒について、様々な支援や解決策が必要となる事例が多く、今後はさらに、SSWやSC、さわやか相談員等の外部の機関との連携をさらに密にし、組織的に充実させていく必要がある。</p>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	B	<p>○外部の講師を招いた学習会等を行うことができ、生徒は自分の将来についてより深く考えることができた。</p> <p>○3年生の進路だよりが定期的に発行され、全学年でも学級活動で活用することができた。</p> <p>●3年間を見通したキャリア教育を進めていくために、学校全体で3年間の計画の見直しが必要である。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○生徒の個別の指導計画、支援計画に沿って、学習を進めることができ、生徒一人ひとりを理解し、それぞれの生徒にあった支援をすることができた。</p> <p>●通常学級との連携や交流の機会をさらに増やせるとよい。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○週2回、朝読書の時間を設定して、学校全体で読書活動に取り組むことができた。</p> <p>○司書教諭、学校司書、図書委員による図書室の整備や掲示物の作成等、図書室の利用環境を整えることができた。また、蔵書の更新や学級文庫などを充実させることができた。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○生徒は情報モラルについての意識を醸成させつつある。また、授業の中でも職員がタブレットを使って授業を行うことが多くなり、生徒自身も活用できるようになってきた。</p> <p>○SNSも含め、情報モラルについて集会や学級で指導をすることができた。</p> <p>●全教職の情報リテラシーやタブレットを活用した授業を充実させるために、研修を行う必要がある。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<p>○人権作文や人権標語などの作成に取り組み、生徒の人権に対する意識を醸成させることができた。また、道徳の授業でも人権に関する内容を取り入れ、生徒が人権に関して考える機会を多く設定することができた。</p> <p>○各教科、領域において、常に人権意識を持った取組を行うことができた。</p> <p>●教職員の研修を充実し、様々な人権課題への理解を深め、全教職員が指導力をさらに向上させる必要がある。</p>

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力の向上	定期開催の学力向上部会において、学力向上についての取組を検討している。	B	○年度当初、家庭学習の取り組み方を生徒に指導するために、「両新田中学校学習の手引き」を配布し、年間を通して生徒の家庭学習への習慣づけを行うことができた。 ●基礎・基本の学力の定着が不十分な生徒がいるので、放課後の個別指導や長期休業期間中の学習会の機会を設け、支援していく必要がある。
	ボランティア活動	生徒とPTAが協力し、校内の環境整備を行っている。	B	○生徒とPTAが協力し、花壇の整備や花の植え替え作業、校内の環境整備を行い、たくさんの生徒が自らの手で潤いのある生活環境づくりを行った。 ●引き続き、ボランティア活動を充実させるために、委員会や部活動単位で参加をするための機会を設け、生徒のボランティア活動に対する意識を高める。
	両中スマホルール	校区の小中学校と連携して、独自のスマホの使用ルールを設定して、一貫した指導を行っている。	B	○両中スマホルールを設定し、校区内の小中学校で統一してスマホの使い方の指導を行うことができた。また、非行防止教室や長期休業に入る前に、スマホの活用について指導をすることができた。 ●両新田中学校区内で一貫してスマホルールを設定しているが、生徒の実態に見合った内容となるようにルールの見直しを行っていく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校評価アンケートの学校教育目標（自ら学び 心豊かに たくましく）に関する項目の達成状況では、保護者の回答は81.2%と、高い達成度を得ることができ、両新田中学校の教育活動に理解を頂くことができた。また、教職員の回答も93.0%と高く、教職員自身も学校教育目標を理解し、学校運営参画意識をもって、校務分掌にあたることができた。
- ・今年度は、昨年度よりも学校行事をコロナ対策を施しながら充実させることができた。
- ・体育祭や合唱祭、授業参観を通して学校の様子を保護者に公開する機会が増え、学校の教育活動の取組を保護者に伝えることができた。
- ・保護者アンケートの項目「学校は一人ひとりの生徒を大切にしている」の達成度は81.2%、「学校は子どものことについて家庭と連携をとっている」は82.3%と高い評価を得ることができ、学校と保護者が連携をしながら、一人ひとりの生徒を大切に指導を行うことができた。
- ・「子どもは楽しく学校に行っている」は91.2%、「子どもはルールや約束を守って生活している」は93.9%と高い達成度を得ることができ、子どもたちが安心して充実した学校生活を送ることができたことが分かる。
- ・「子どもに学力をつけている」の達成度は69.6%と低く、各教科領域等で「主体的で対話的な深い学び」を意識したよりよい指導法を用いて、生徒の学力の向上を図っていきたい。
- ・生徒の評価と教職員の評価に差がある項目について、その差を縮められるように努めていく。
- ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止策を図りながら教育活動を行うことができた。保護者アンケートの全ての項目の達成度の平均は81.0%であった。（昨年度は81.1%）

6 次年度の改善策

(1) 基礎学力の定着と学力向上に向けた取組

- ・生徒の基礎学力の定着を図るために、家庭学習の習慣化を図る指導を行う。
- ・教職員の授業力向上を図るために、校内授業参観週間を設定する。
- ・学力・学習状況調査（全国・県・市）の結果を分析し、一人ひとりの生徒の達成度の把握と教職員の指導方法の改善を図る。
- ・ICT 機器を有効に活用した授業実践と教職員の ICT 活用力を向上させるための校内研修を充実させる。
- ・草加っ子の学びを支える授業の 5 か条の視点（特に第 3 条と第 4 条）を取り入れた授業実践を行う。

(2) 生徒一人ひとりを大切にされた指導、支援

- ・生徒一人ひとりを理解し、寄り添いながら家庭と連携して指導、支援を充実させる。
- ・常に教職員間で情報を共有しあい、部会（生徒指導、教育相談、いじめ防止対策）を有効に活用し、組織的にいじめ、不登校生徒の解消に向けた支援を積極的に進めていく。また、SC、SSW、諸機関と連携して、生徒指導・教育相談活動をさらに充実させ、継続・推進していく。
- ・生徒が主体となって活躍できる活動を充実させ、生徒が達成感を味わい、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む。

(3) 両新田中学校区幼保小中一貫教育の充実

- ・令和 4 年、5 年の研究委嘱発表に向けて、全教職員が両新田中学校区のめざす子ども像を理解し、小学校との連携をさらに充実させる。
- ・小中学校の教職員が校区の共通の課題である「基礎学力の定着」と「自己肯定感の育成」を図るために、研修会等を充実させる。
- ・新年度当初に組織を再編し、各部会の取組内容を明確にし、実践を進める。また、研究仮説にせまるための手立てを各部会で決定し、それぞれの授業の中で実践していく。